



勉強は辛抱が大事

成功は99%の失敗や辛抱に支えられている

5月30日(金)に前期中間テストが行われました。中学校での初めての定期テストで、ドキドキしながらこの日を迎えたことと思います。この定期テストは、「これまでの授業・学習で自分がどれくらい理解できているか」ということを確認するものです。

1年間に4回の定期テストがあり、3年間で12回の定期テストを受けることになります。そして、3年生の冬には、高校受験があります。中学校3年間での学習が範囲となります。見方を変え

ると、定期テストの積み重ねの先に高校入試があるということです。高校入試はまだまだ先のことと思っているかもしれませんが、1年生の授業・テストが高校入試につながっているのです。

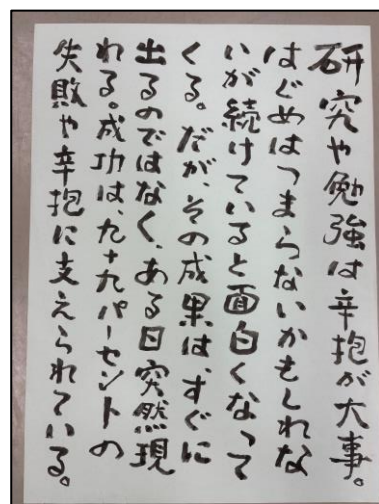
テストが終わった次の授業から各教科でテスト返しが行われました。社会のテスト返しの時間では、初めにみんながよく間違えていた問題の解説をしたり、気を付けてほしいことなどを話したりしました。この時からみんな自分の点数ばかり気になって、そわそわしていました。答案用紙を返すと、自分の点数とほかの人の点数を比べ、喜んだり、落ち込んだりする姿がちらほら見られました。また、「平均点は何点でしたか？」と聞いてくる生徒も多くいました。テストの点数が気になるのは、すぐわかります。ただ、点数という数字だけで「平均点より良かったからいいや」などの安易な判断で終わらないようにしてください。平均点の一つの目安にすぎません。それよりもテストまでの自分の取り組みをしっかりと振り返ったり、次のテストに向け、どんな取り組みをしたらよいかなどを考えたりしてほしいと思います。勉強してもすぐには点数に結びつかないこともあります。生徒玄関を入ったところに掲げてある、第12代伊藤敏幸校長先生の言葉には「勉強は辛抱が大事」という言葉があります。結果がすぐに現れるわけではないと思います。「勉強したのに、点数があがらない」といって、早々にあきらめてしまつては、自分で可能性を潰してしまうことになります。「継続は力なり」という言葉もあるように、地道にコツコツと積み上げていくことが、成功の秘訣だと思います。

6月12日(木)に成績表を返しています。本校では、順位を出していますが、1年生の前期中間テストに限っては、順位を出していません。次の前期期末テストから順位も出します。これも点数と同じで、本校の中だけの順位だけで、「良かった」「悪かった」などの安易な判断にならないようにしてください。

成績表に綴じてある個票の下にテストの振り返りを生徒が記入しています。ぜひ、ご家庭でもテストに向けての取り組み方や家庭学習の様子などについて、お子さんと話をしていただきたいと思います。個票の下に保護者確認欄に押印またはサインのどちらかをしていただき、お子さんを通じて、1～2週間をめどに成績表を担任まで提出してください。この成績表は3年間使用しますので、紛失などされないようお願いします。



テストを受ける様子



第12代伊藤敏幸校長先生の言葉